



日本中世宗教史研究

[キーワード: 僧兵 悪僧 密教修法 呪術 霊験]

教授 衣川 仁

<研究の概要>

日本の中世という時代(平安中期頃から織豊期頃まで)においては、宗教が大きな“力”をもっていた。その“力”は、大きく二つの要素から成り立っていたと考えられる。一つは僧兵に代表される宗教的な暴力、もう一つは社会を覆っていた呪術的な思考である。

前者の宗教暴力は、中世を除けば日本ではほぼみられない。なぜ中世にのみ存在できたのか。また中世の終焉とともにそれがなくなったのはなぜなのか。

後者の呪術的な思考とは社会を覆っていた宗教的な考え方の中で、中世では“年貢を納めなければ地獄に墮ちる、”というように、宗教勢力側から発信されたが、世俗社会の側でも“雨が降ったのは祈りのおかげ、”というように広く受容されることになった。人々を呪縛するこの宗教的な言説は、人々を支配に組み込むことにも機能したため、宗教勢力のみならず世俗の権力(朝廷や幕府)にも容認されることになった。前者の宗教暴力が存在できたことも、この問題と深く関わっている。

では、中世の人々はこうした宗教的な呪縛のもとで、神や仏、その“力”の発露としての宗教暴力に対し、脅えるばかりだったのだろうか。このような社会と宗教の関係について、中世の現実に即して考察している。また、宗教が“力”をもっていたのが中世の現実であったとすれば、その後どのような流れをたどりながら、しばしば「無宗教」と評される現代日本につながっていくのだろうか。この問題についても考えてみたい。

<主要研究業績>

- ・衣川 仁 (2007)『中世寺院勢力論』吉川弘文館
- ・衣川 仁 (2010)『僧兵＝祈りと暴力の力』講談社
- ・衣川 仁 (2011)「寺社勢力、二つの力」高橋昌明編『別冊太陽 平清盛 王朝への挑戦』平凡社 97-99頁
- ・衣川 仁 (2013)「検証！寺院の武力組織 僧兵から一向一揆、石山戦争まで」『歴史読本 特集 日本の大寺院』中経出版 172-177頁
- ・衣川 仁 (2013)「僧兵を誕生させたのは比叡山中興の祖・良源？」佐藤泰弘責任編集『週刊新発見！日本の歴史 16 摂関政治の絶頂と転機』朝日新聞出版 24頁
- ・衣川 仁 (2014)「戦争の祈りと中世寺院」高橋典幸編『戦争と平和 生活と文化の歴史学5』竹林舎 152-177頁
- ・衣川 仁 (2017)「寺社勢力の展開」佛教史学会編『仏教史研究ハンドブック』法蔵館 206-207頁

専門分野 : 日本中世史

E-mail: kinugawa@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7153

Fax : 088-656-7153

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/72574/profile-ja.html>